

「半身雇用」時代を生き抜く思想

企業は人を捨て 国を棄てる



津田真澄

Masumi Tsuda

NESCO



企業は人を捨て

「半身雇用」時代を生き抜く思想

津田 眞 澁
Masumi Tsuda

国を棄てる

NESCO

まえがき

会社の経営者や管理者の前で、今後の経営のありかたについて、まとまった話をする、ほぼ共通の反応がかえってくる。「話の趣旨は分るけど、ウチはまだそんな先のことを考えていないから」とか「われわれの日常は、毎日毎日の業務に追われているから、一年先のことを考えるのが精一杯で、そんなものかと聞き流すだけだ」という反応だ。中にはもつと手きびしい反応がある。「忙しいから、今日のことをうまくやり抜けるノウハウを聞きなかったのに、どうなるか分らないような先のことなど聞いても、なんの役にも立たない」というのだ。

私は、毎日毎日を事業活動についやしているわけではないから、私から、こまかな仕事のこなしかたを聞き出そうとしても無理な話だ。また「今後」といっても、私の話は、せいぜいが五年先のことで、そんなに遠い将来のことを主題にしているわけではない。だが、

私はそういう共通な反応をえて、ビジネスマンが関心を持っている時間距離や視野の範囲が非常に短く狭いことを知って、むしろびつくりした。正直にいつて、そんなに小さな生活空間で生きているのか、ということのを再認識した。これからは、話をする時には、範囲や時間距離に気をつけないといけない、と反省した。

だが、他方で、これからは、そんなことでは生きつづけられないのではないか、自分のことをもつとしつかりと深く考えなければならぬのではないのか、と叫びたくなるのも、私自身の率直な再反応だった。

今は、文句なく激動期である。社会は技術の上でも雇用の上でも、事業だろうと知識・経験だろうと、すべてがゆれ動き、変革に向かって動いている。われわれは、産業革命の進展をこの眼で見えており、また、世界の激震をこのからだで体験しているのだ。この激動期に必要なのは洞察力であり、その洞察力を裏づけるのは、将来に向かっての思想なのではないか。

日本は明らかに衰退の周期に入った、と私は思う。今の激動期や今後の見通しについては、すべての官庁が長文の報告書を次々に刊行している。それらを通読しての改めでの感想は、すべての報告書がバラ色の見通しを述べていることだ。政府のある審議会責任者で

ある東大教授が「国民に不安をあたえるような内容の報告にするわけにはいかない」と断定したことを思い出す。バラ色の見通しをえがくには、国民に不安をあたえるかあたえないか、という基準ではなく、バラ色の見通しになる、という日本社会についての明瞭な思想ができていなくてはならない。官庁報告書にその思想が見られるものは実にわずかだ。

日本の経営システム、クラスター専門職など、今までに私が勉強して述べてきたことの基礎にある事柄を表に出してみたのが本書である。本書は衰退の周期に入った日本を、世界における関係の中でそのまま衰退におちいらせないですむための工夫について述べた。「そんな先のことは考えていない」と思っているビジネスマン諸氏には、とくにぜひ読んで欲しい。これから八十歳まで生きるビジネスマンには深くかかわりのある事柄だからだ。本書のような、まことに縁遠いような内容のものを刊行していただいた梶邦子氏、文章作成を助けていただいた永井晴幸氏、および文藝春秋・ネスコに深い謝意を表したい。

昭和六十三年九月

津田 眞澄

第一章 社会がこのままでは生き延びられない

- 「出回症候群」の流行が始まった 17
- 四十五歳以上サラリーマンの排出の流行 19
- 企業は「終身雇用」をもつやめたい 23
- 「半身雇用」が定着していく 27
- 企業の「無国籍化」が始まった 31
- 海外製品の技術水準はどんどん高度化する 36
- 「透明人間」であってはならない 39

第二章 世界の中で日本経済はどうなっていくか

- 世界経済の二パーセントを占める日本経済 47
- 累積債務国は世界経済のブラック・ホール 52
- 「アメリカは大丈夫」は本当か 59
- 不健全経済の歴史は長い 60
- 世界経済を危機に追い込んだレーガン 64
- 国も企業も国民も借金つけた 67
- アメリカの借金合計で一千兆円 72
- 硬直した官僚機構と逃げる企業 74
- 乗り合い船の仲のアメリカと日本 80
- 日本経済の出口を見つけない 83
- 太平洋経済圏の確立の中で 86
- 日本の企業経営者の意識変革が大切 91

第三章 日本を取り巻く国際関係は緊迫している

サミットは国同士の利害衝突の場だ 97

日本は邪魔な存在に成長した 101

「平和条約はたんなる二十年間の休戦に過ぎない」 103

境界があいまいなところを伸ばすソビエト 109

ソビエトの世界戦略は効率性、持続性、柔軟性をもつ 113

ゴルバチョフの戦略目標 121

米ソに挟まれた日本 124

第四章 「国際化」できない日本、日本人

「国際化」という言葉は日本語だ 129

欧米ではなぜ「国際化」が問題にならないのか 132

中流階級が基盤の日本的経営は特殊なもの 134

日本の「国際化」には越えられない壁がある 136

中流階級経営と海外の経営は激突する 140

アジア進出の中小企業の二五パーセントが失敗している 143

企業の「無国籍化」で産業・雇用は空洞化する 146

日本の企業や官庁では、国際感覚をもつ人が育ちにくい 152

政治家や官僚に国際感覚を望むのはむずかしい 155

日本人はこのままでは「国際化」できない 160

第五章 日本の自立計画を提言する

日本が抱えている問題 165

自立する計画を真剣に考えよう 169

陸地は無限の可能性を秘めている 175

地下に大都市を建設する 178

地下都市建設のプランは、すでにいつから始められている 182

地上は人間の豊かな生活の本拠にする 185

海洋開発は緊急の課題だ 188

謎に満ちた海洋生物の解明 191

養殖漁業のハイテク化 193

海洋牧場の経営 196

魚群誘導技術の発達 198

第六章 自立計画の具体化のために

バラバラに乱立した官庁プラン 203

「新ヤルタ会談」に注意せよ 205

国土開発省を設置する 210

自立計画の資金の調達と管理 213

中高年と外国人労働力を活用する

われわれは時代関頭に立っている 219 217

新しい情報産業社会をつくる 223

衰退の場々の最終覚悟 227

マサダ・プラン? 232

■著者紹介・津田眞澄（つだ　ますみ）

大正15年生まれ。昭和27年東京大学経済学部卒業。
武蔵大学、中央大学を経て現在、一橋大学社会学部教授。人事労務の第一人者で、政治家、官僚、財界人に直接会い、現状を把握分析して、実態を見据えた研究を続けている。経済学博士、社会学博士。

著書に『日本的経営の人事戦略』（同文館）、『人事革命』（ごま書房）、『日本的経営はどこへ行くのか』（PHP研究所）他、多数がある。

NESCO

企業は人を捨て国を棄てる

「半身雇用」時代を生き抜く思想

定価1,200円

1988年10月8日　第1刷

著　者　津田眞澄

©Masumi Tsuda 1988

発行人　鈴木琢二

発行所　ネスコ（日本映像出版株式会社）
東京都千代田区紀尾井町3-23文春ビル内 〒102
TEL 03-265-1284

発売元　株式会社 文藝春秋
東京都千代田区紀尾井町3-23 〒102
TEL 03-265-1211

印刷　凸版印刷　製本　凸版製本

ISBN4-89036-746-2

落丁、乱丁本は、お手数ですが文藝春秋営業部宛お送り下さい。
送料小社負担でお取替致します。

PRINTED IN JAPAN
